

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年2月14日

【四半期会計期間】 第41期第3四半期(自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日)

【会社名】 大阪製鐵株式会社

【英訳名】 OSAKA STEEL CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岩 崎 正 樹

【本店の所在の場所】 大阪市大正区南恩加島一丁目9番3号
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行って
おりません。)

【電話番号】 —

【事務連絡者氏名】 —

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区道修町三丁目6番1号

【電話番号】 06-6204-0163

【事務連絡者氏名】 財務部長 山 下 清 文

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (百万円)	57,679	70,806	81,100
経常利益 (百万円)	5,162	4,869	6,703
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	3,334	2,670	4,318
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,219	2,225	4,028
純資産額 (百万円)	143,477	145,010	144,286
総資産額 (百万円)	187,529	195,786	194,130
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	85.66	68.60	110.95
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	75.0	72.8	72.9

回次	第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	30.10	22.67

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

平成30年3月期有価証券報告書（平成30年6月28日提出）により開示を行った内容から重要な変更がないため、記載を省略しております。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

（経営成績の概況）

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景に設備投資が増加したことに加え、雇用・所得環境の改善が継続し、個人消費に持ち直しの動きがみられたことで、全体としては緩やかながらも回復基調が続くこととなりました。

当社グループの属する普通鋼電炉業界におきましては、建築・土木向け需要は底堅く推移したものの、主要資材価格の上昇により製造コストの増加を余儀なくされました。

このような状況において、当社グループはコンプライアンスの強化・充実を図りつつ、安全衛生・環境・防災のリスク管理強化を進めるとともに、品質向上および商品力強化を一段と推進してまいりました。また、省エネルギー・省資源化操業の追求など、外部環境の変化に対応したコスト低減にも取り組んでまいりました。

加えて、当社グループは、『2020年度連結中期計画 ～新たな飛躍～』を策定し、PT.KRAKATAU OSAKA STEELを中心とした成長戦略の推進や、グループ国内事業の効率的な生産・物流体制の一層の強化にも鋭意取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループにおける鋼材売上数量は89万2千トン、売上高は708億6百万円（前年同期実績576億7千9百万円）、経常利益は48億6千9百万円（前年同期実績51億6千2百万円）となりました。また、平成30年台風第21号による災害損失を特別損失に計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は26億7千万円（前年同期実績33億3千4百万円）となりました。

（財政状態の概況）

① 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1.3%増加し、1,237億6百万円となりました。これは、主として預け金が24億8千2百万円減少し、受取手形及び売掛金が19億8千4百万円、未収入金が10億4千1百万円、棚卸資産が10億3千9百万円増加したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ0.1%増加し、720億7千9百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ0.9%増加し、1,957億8千6百万円となりました。

② 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2.4%増加し、334億9千9百万円となりました。これは、主として未払法人税等が16億5百万円、支払手形及び買掛金が11億5千1百万円減少し、短期借入金が35億6千3百万円増加したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ0.8%増加し、172億7千6百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ1.9%増加し、507億7千6百万円となりました。

③ 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ0.5%増加し、1,450億1千万円となりました。これは、主として親会社株主に帰属する四半期純利益などにより利益剰余金が11億9千万円増加したことによるものです。

(2) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、これまで築き上げた揺るぎない経営基盤を活かしつつ、様々な課題に積極的に対応し、「新たな飛躍」に向けた体質強化と成長戦略を推進すべく、『2020年度連結中期計画』を策定し、平成30年3月に公表いたしました。

その主要な内容は、海外事業（KOS社）の着実な推進、品質・商品力の更なる強化、グループ国内事業の効率的な生産・物流体制の構築、省エネルギー・コスト対策の推進等であり、以下の経営計画（数値目標）の達成を目指してまいります。

売上高1,000億円（海外比率37%）、鋼材出荷量150万t、経常利益100億円、ROS10%

(3) 研究開発活動

当期は新商品開発、製造プロセス改善、圧延生産性向上、ビレット及び製品品質向上をテーマに上げ、技術開発・操業改善に取り組んでおります。

なお、当第3四半期連結累計期間においては、新商品開発にかかる研究開発費を2百万円計上しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	113,812,700
計	113,812,700

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	42,279,982	42,279,982	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	42,279,982	42,279,982	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年12月31日	—	42,279	—	8,769	—	11,771

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成30年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,358,600	—	単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,881,700	388,817	同上
単元未満株式	普通株式 39,682	—	—
発行済株式総数	42,279,982	—	—
総株主の議決権	—	388,817	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式84株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 大阪製鐵株	大阪市大正区南恩加島 一丁目9番3号	3,358,600	—	3,358,600	7.94
計	—	3,358,600	—	3,358,600	7.94

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役、 大阪事業所長、 Sプロジェクト班長、 教育に関する事項について CLOを補佐	常務取締役、 大阪事業所長、 大阪事業所堺工場長、 教育に関する事項について CLOを補佐	藤田 和夫	平成30年7月1日

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,948	3,914
受取手形及び売掛金	※1、※2 20,233	※1、※2 22,217
製品	13,050	14,054
仕掛品	484	373
原材料及び貯蔵品	5,807	5,954
未収入金	※2 11,831	※2 12,873
関係会社短期貸付金	10,000	10,000
預け金	56,650	54,168
その他	119	152
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	122,123	123,706
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,058	8,042
機械装置及び運搬具（純額）	22,118	21,914
工具、器具及び備品（純額）	1,767	1,850
土地	35,660	35,678
建設仮勘定	1,285	1,202
有形固定資産合計	68,890	68,689
無形固定資産		
その他	230	180
無形固定資産合計	230	180
投資その他の資産		
投資有価証券	2,155	1,792
長期貸付金	1	1
退職給付に係る資産	89	89
繰延税金資産	272	317
その他	389	1,008
貸倒引当金	△22	—
投資その他の資産合計	2,885	3,210
固定資産合計	72,006	72,079
資産合計	194,130	195,786

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※1、※2 14,831	※1、※2 13,680
短期借入金	8,588	12,151
1年内返済予定の長期借入金	80	59
未払金	※2 5,103	※2 5,078
未払法人税等	2,153	547
修繕引当金	418	396
災害損失引当金	212	407
その他	1,322	1,176
流動負債合計	32,710	33,499
固定負債		
長期借入金	13,048	13,069
繰延税金負債	1,525	1,583
退職給付に係る負債	1,643	1,776
事業構造改善引当金	518	517
厚生年金基金解散損失引当金	70	—
その他	327	330
固定負債合計	17,133	17,276
負債合計	49,843	50,776
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,769	8,769
資本剰余金	10,904	10,904
利益剰余金	125,490	126,681
自己株式	△4,535	△4,536
株主資本合計	140,629	141,819
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	782	530
繰延ヘッジ損益	108	226
為替換算調整勘定	63	28
退職給付に係る調整累計額	△91	△68
その他の包括利益累計額合計	862	717
非支配株主持分	2,795	2,473
純資産合計	144,286	145,010
負債純資産合計	194,130	195,786

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	57,679	70,806
売上原価	47,644	60,265
売上総利益	10,034	10,540
販売費及び一般管理費		
運搬費	2,316	2,675
給料及び賞与	826	841
退職給付費用	35	46
減価償却費	67	76
その他	1,558	1,663
販売費及び一般管理費合計	4,805	5,302
営業利益	5,229	5,237
営業外収益		
受取利息	106	114
受取配当金	33	38
固定資産賃貸料	221	310
その他	98	155
営業外収益合計	460	618
営業外費用		
支払利息	171	334
固定資産除却損	179	139
租税公課	111	59
為替差損	10	391
その他	54	61
営業外費用合計	527	986
経常利益	5,162	4,869
特別損失		
災害による損失	—	※ 574
特別損失合計	—	574
税金等調整前四半期純利益	5,162	4,295
法人税、住民税及び事業税	1,970	1,877
法人税等調整額	47	68
法人税等合計	2,018	1,946
四半期純利益	3,144	2,349
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△189	△320
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,334	2,670

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	3,144	2,349
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	326	△251
繰延ヘッジ損益	△28	147
為替換算調整勘定	△245	△43
退職給付に係る調整額	22	23
その他の包括利益合計	74	△124
四半期包括利益	3,219	2,225
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,463	2,525
非支配株主に係る四半期包括利益	△244	△299

【注記事項】

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、以下の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形	49百万円	87百万円
支払手形	16 "	13 "

※2 当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、債権債務の一部について期末日期的ものが四半期連結会計期間末残高に含まれております。

その主なものは以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
売掛金	2,401百万円	2,150百万円
未収入金	2,909 "	2,841 "
買掛金	2,502 "	2,236 "
未払金	720 "	537 "

(四半期連結損益計算書関係)

※ 災害による損失

当第3四半期連結累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日）

平成30年9月に発生しました平成30年台風第21号により、当社大阪事業所及び子会社である日本スチール株式会社において被害が発生し、その災害による損失額574百万円を計上しております。内訳は、建物等の現状復旧費用432百万円、製品の評価損130百万円、固定資産除却損11百万円であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	2,883百万円	2,982百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月16日 取締役会	普通株式	681	17.50	平成29年3月31日	平成29年6月7日	利益剰余金
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	486	12.50	平成29年9月30日	平成29年12月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月17日 取締役会	普通株式	817	21.00	平成30年3月31日	平成30年6月6日	利益剰余金
平成30年10月31日 取締役会	普通株式	661	17.00	平成30年9月30日	平成30年12月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

当社グループは普通鋼の生産及び製品等の販売並びにこれらの運送を包括的に営んでおり、当社グループで経営資源の配分の決定及び業績評価を行っていることから、事業セグメントは単一であり、該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

当社グループは普通鋼の生産及び製品等の販売並びにこれらの運送を包括的に営んでおり、当社グループで経営資源の配分の決定及び業績評価を行っていることから、事業セグメントは単一であり、該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	85円66銭	68円60銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	3,334	2,670
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	3,334	2,670
普通株式の期中平均株式数(株)	38,921,512	38,921,261

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

第41期(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)中間配当については、平成30年10月31日開催の取締役会において、平成30年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

(1)配当金の総額	661百万円
(2)1株当たりの金額	17円
(3)支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成30年12月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年2月14日

大阪製鐵株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 浅野 豊 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岸田 卓 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大阪製鐵株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大阪製鐵株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年2月14日

【会社名】 大阪製鐵株式会社

【英訳名】 OSAKA STEEL CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岩 崎 正 樹

【最高財務責任者の役職氏名】 ー

【本店の所在の場所】 大阪市大正区南恩加島一丁目9番3号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長岩崎正樹は、当社の第41期第3四半期（自平成30年10月1日至平成30年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。